



とらいあんぐる



2023 年 1 月 ・ 2 月

一音会ミュージックスクール発行

「リセットする」

1 か月なんて、あっという間です。

「とらいあんぐる」は、ほぼ 1 か月に 1 回のペースで発行していますが、いつもついこの間、書いたばかりのような気がしています。

気がつけば発行する時期になっているので、軽く驚きます。そして「何を書けばいいの?!」と、急にあわてることになります。日常の忙しさにかまけていると、1 か月なんて、本当にあっという間です。

あわてる日々を反省し、実は私は、こ

の 1 年ほど、「とらいあんぐる」を書く “ルーティン” をあみだしています。“ルーティン”とは、お決まりの手順という意味です。

私は、この数年、月の第一日曜日に、お墓参りに行くことにしています。

そして、この 1 年ほどは、お墓参りの時に、今、自分が素直に感じていることを見つめなおしてみることにしたのです。その中で、一番強く浮き上がってくるものを「とらいあんぐる」のテーマとするのです。

これは、とても自然なやり方でした。

“ルーティン”と呼んで良い流れの

ように思います。

私の母が眠るお墓は、江戸川沿いの坂の中腹にあります。母が、そのお墓に眠るようになって、この1月で11年になります。

長いような、短いような、不思議な年月でした。

ある瞬間には、時空がゆがみ、母がいさっきまでそこにいたかのような錯覚がおこります。その一方で、何もかもが遠い昔であるような、ぼんやりとした感覚の瞬間もあります。

母が眠るお墓は、街中でありながらいつも静かで、澄んだ空気が流れています。



お墓に着けば、まず掃除です。水をくみ、水を運び、墓石に水をかけ、墓石を磨き、また水をくみ、墓石を磨き・・・この単調な作業を延々と続けます。

石を磨くために、ひたすら手を動かします。

水を運ぶために、ひたすら足を動かします。

手を動かし、足を動かす作業をずっと続けていると、おもしろいことに、頭が整理されていきます。

単調な作業であることが良いように思います。作業に頭を使いませんので頭をからっぽにできます。

小説家の中には、散歩しながら着想を得る人も多いたとききます。それといっしょにするのは、おこがましいですが、手足を動かすことで頭が整理されるのは本当だと思います。

無心にお墓を掃除した後は、お花をいけて、お線香をたきます。

そして、手を合わせます。

いつもの流れです。

一通りおこなうと、なんだか心も身体もリセットされ、浄化されたような気持ちになります。

その後も“ルーティン”があります。坂をおりればすぐ駅なのですが、私はおりることをせず、そのまま坂をのぼります。

坂をのぼりきったところにあるのは椿山荘です。

行くところはいつも同じ。バンケット棟の喫茶です。

いつも同じコーヒーを注文します。

リュックからノートPCを出し、コーヒーを飲みながら「とらいあんぐる」のアウトラインを一気に書いてしまうのです。



お墓を磨きながら、とりとめもなくあふれた思いや考えが、バラバラのパズルピースのように頭の中に散らばっています。それらをまとめるのは、椿山荘の1杯のコーヒーです。

思い起こせば、母が亡くなってからの11年だけではなく、私は何十年の間、数えきれないほど、この坂をのぼって、数えきれないほど、椿山荘からの景色をながめてきました。

お墓も椿山荘も、風景がほぼ変わっていません。

だから、「いつものところ」ということで、雑念が入らないのだと思います。

“ルーティン”として機能します。

このお墓は、私の祖父が亡くなった時に、祖母が買ったものです。祖父が亡くなった時、私は小学校6年生でした。

祖父も祖母も、故郷が福岡であったため、当時、東京にお墓を持っていませんでした。

祖母はすでに行動範囲がせまくなっていて、できればバス1本で行ける場

所を求めていました。車いすの身だった母も、自宅から歩いて行ける距離でなければ、実際にはお参りができませんでした。まだバスも電車も駅も、バリアフリーではなかった時代です。

江戸川沿いのお寺は、祖母と母の願い通りでした。

自宅から歩いて行ける距離であるだけでなく、そのお寺は、山門から境内までがスロープ状になっていたのです。

お墓を持つには、お寺にお願いして、墓所（お墓をたてるスペース）を買わせてもらわなくてははいけません。

当初、墓所を買わせてほしいといったところ、即座に断られました。

女系家族だったからです。

祖父母の子どもは、女ふたり。伯母と母です。伯母の子どもも、女ふたり。母の子どもは、女ひとり（私）。

見渡すかぎり、女ばかりなのです。女性は、結婚すれば苗字が変わり、嫁ぎ先の家のお墓に入る人生です。そんな時代でした。

和尚さんからすれば、今後、墓守りがいなくなりそう・・・どころか、すでに墓守りがいないに等しい家系です。

断られるのも当然です。

祖母は何度も何度も足を運び、墓所を分けてほしいと、お願いをしていました。でも、和尚さんは、「うん」とはいいません。

祖母は必死でした。車いすの母が来ることができるお寺は、他にありません。

ある日、祖母は最後の手段に出ます。

念書をたずさえ、住職に深々とお辞儀をします。

「最後のお願いです。これでダメなら、もうあきらめます。もうまいりません」

念書には、こう書いてありました。

「孫の彩子が、生涯、墓守りをします。彩子の死後も、彩子の子ども、彩子の孫、代々かならず、墓守りを出します」

となりにいた私も、祈る気持ちで、祖母と一緒に頭を下げていました。

私も必死でした。祖母の願いをかなえてあげたいと、心から思いました。

それと、何度も祖母に連れられて足を運ぶうちに、私自身、そのお寺に愛着がわいてきていたのです。

念書の効力なののでしょうか。必死がようやく伝わったのでしょうか。

この日とうとう、和尚さんが折れるのです。

忘れられない日になりました。和尚さんは、ふっきれたような笑顔でした。

和尚さんの背後の庭には、さんさんと日が差していました。

以来、祖母と私で墓参りをすることが習慣になりました。



「ほら、ちゃんと墓守り、やってるでしょ？」と、和尚さんに見せるために、私は腕まくりをし、必要以上に張り切ってお墓を磨いたものです。

和尚さんの「ほとけさまのおはなし」も、たくさんきかせてもらいました。

「ほとけさま」に、ものすごく興味を持っているかのようにふるまうことも忘れません。

思えば狡猾な子どもでした。

こうして祖母は、私をダシに使ってまんまとお墓を手に入れましたが、私に悪いという気持ちが多少あったのでしよう。お墓の帰り道は、かならず椿山荘に寄って、「あっちゃん、なんでも注文して良いのよ」といいました。

バンケット棟の喫茶で、私はいつも遠慮なく飲み食いしていました。

かならず、フルーツジュースを飲んでいました。ケーキを食べたこともありました。祖母はいつも紅茶でした。祖母がコーヒーを飲まない人であったことも、今、同じ場所に座って、唐突に思

い出します。

長い長い歳月がたちました。

あの時と同じ椅子で、私はフルーツジュースではなく、コーヒーを飲んでいきます。

私の向かいの席で紅茶を飲んでいた祖母は、執念で手に入れたあのお墓に入りました。30年以上前のことです。

今は、私ひとり「とらいあんぐる」を書いています。

中身の人間がこんなに変わったのに、お墓も木々も建物も、一見なにも変わりません。

今は、お墓の形もいろいろです。

おそらく、少子化の今、墓守りをする子や孫の負担を考え、墓じまいをしたり、樹木葬や海洋葬など、お墓の形をとらない埋葬を考えたりするのでしょう。

今の時代なら、祖母もお墓の形ではない埋葬を考えたのかもしれませんが。

でも、私は中学生の頃から日常的に昔ながらの墓参りをし、“ルーティン”にも組み込んでしまった今、「墓参りも

良いものですよ」、「石のお墓も良いものですよ」と、発信したい気持ちです。

お墓の前に立てば、心がリセットされます。独特の空間がそうさせます。

多くの人が初詣に行くのも、おそらく同じでしょう。神社や仏閣の独特の空気の力を借りて、心をリセットすることができます。

故人と向き合うことができるのはもちろんですが、日常のごたごたから、すっと抜けて、気持ちを整える場を持つのは、案外、ありがたいものです。

月のはじめの“ルーティン”で、私はリセットされ、新しい気持ちになれます。

さあ、1年がはじまります！

新しい気持ちで、新しい1年を楽しみたいと思います。 (江口 彩子)



◆今年もよろしくお願ひいたします

コロナ禍が続きますが、この年末年始はもっとも制限のゆるやかな期間になりました。久しぶりの帰省で、ご家族やご親戚と、楽しい時間をお過ごしになった方も多いことでしょう。ご旅行を楽しまれた方もいらっしゃるでしょう。

明るいな年明けです。今年もコロナ警戒は続きますが、できることを積み重ね、皆さまに安心して安全にレッスンをお受けいただけますよう、全力を尽くしたいと思います。

皆さまには、ご理解、ご協力を求める場面も多々あると思いますが、本年もどうかよろしくお願ひいたします。



◆「ピアノ・トライ」がスタートします

たくさんの方に、「ピアノ・トライ」のお申し込みを頂戴しました。今年度の「ピアノ・トライ」は、「対面式」と「動画式」のうち、ご都合の良い方をお選びいただける“ハイブリッド方式”です。今年は「対面式」に、特に多くのお申し込みをいただきました。

できるかぎり、皆さまのご希望にそうようにするため、一部、時間帯を増やし、1グループの人数を増やし、なんとかお組みいたしました。そのことで、「対面式」はどのグループも満員です。ご予約が変わってしまった場合や、当日ご病気でご参加がかな

わなくなってしまった場合は、申し訳ありませんが、「動画式」でご参加いただきたいと思います。別日程でのご案内が難しくなってしまったためです。

「対面式」で申し込まれた方が「動画式」に変えたい場合は、いつでもおっしゃってください。変更は可能です。逆（「動画式」→「対面式」）ができない点だけは、ご了承ください。

「対面式」は、1月21日（土）より、スタートします。「動画式」の動画提出〆切は、1月23日以降です（今年の「動画式」は、提出〆切が人によって異なりますので、ご注意ください）。

ラストスパートで、一気に完成度が上がることも多いものです。焦らず、練習をお続けください。演奏を楽しみにしています。

◆ 「ル・コンセール」もハイブリッドです

「ピアノ・トライ」ですてきな演奏をしてくださった生徒さんには、「ル・コンセール」にご出演いただくことができます。ご参加費用はかかりません。

「ル・コンセール」も、「対面式」か「動画式」か、ご都合の良い方をお選びいただく“ハイブリッド方式”です。

「対面式」は、2月12日（日）もしくは2月26日（日）に、「ひびきホール」で開催します。少人数編成の部で、部ごとに入れ替えて換気をし、感染防止につとめます。客席の人数を制限し、椅子と椅子の間隔をじゅうぶんにあけます。

「動画式」は、「ル・コンセール」用の動画を提出していただきます。会場に足をお運びいただく必要はありません。限定公開の You Tube で、皆さんに観ていただきます。You Tube のURLは、「ル・コンセール」にご参加の生徒さんとご家族にだけお知らせしますので、一音会関係者以外の人に見られる心配はありません。期間限定の公開を予定しています。

「ピアノ・トライ」の方式とは関係なく、「ル・コンセール」の方式をお選びいただ

けます。例えば、「ピアノ・トライ」を「対面式」とした方が「ル・コンセール」を「動画式」とすることも、その逆も、可能です。「対面式ル・コンセール」に、人数の上限はありません。

◆「フォルテの会」を開催します

「フォルテの会」は、声楽、フルート、作曲、「うたくらぶ（合唱）」の発表会です。以下のように開催いたします。

日 時 : 2023年2月5日（日） 開演12:00

場 所 : 「ひびきホール」

多くの方にご参加お申し込みをいただきました。たいへんうれしいことです。

長時間になることが予想されますため、開演時間を1時間、はやめました。13時開演とお知らせしてきましたが、12時開演に変更させていただきます。

当日は感染防止のために、開け放って開催する可能性があります。あたたかい服装でお越しください。出演時の服装の上にはおるものを、かならずご用意ください。他、こまごまとしたお願いをいたしますが、ご協力をよろしくお願いいたします。

「ひびきホール」

★西武池袋線 東長崎駅

南口より 徒歩7分

★ビルの1階はスーパー

「まいばすけっと」です



◆新年度のレッスン希望表をご提出ください

現在、「今年のあゆみ」とともに、「2023年度レッスン希望表」「新年度資料冊子」「月謝表」「一音会ガイドブック」を、お配りしています。

「レッスン希望表」は、来年度の、レッスン科目、曜日、時間のご希望を、あらためておうかがいするものです。たいへんお手数ですが、全員の方にご提出いただきます。特に変更がない場合も、「変更なし」としてご提出ください。書き方が分からない場合は、遠慮なくおたずねください。

新年度からのスケジュールが、はっきりとは分からない場合には、仮の希望をいったんお出しください。スケジュールがはっきりし次第、後日、改めてお出しいただければ大丈夫です。

なお、曜日や時間を変更する場合には、ほとんどの場合、担当が変わることをご理解ください。現在、その日時で受けていらっしゃる生徒さんが、最優先となるためです。もちろん、ご希望の日時の付近で、現担当の手をあけることができそうな場合には、できるかぎり担当を変えずにお組みするよう、努力いたします。

また、担当が変わる場合にも、個々の生徒さんに、一番適したスタッフがあたるよう、考慮いたしますので、ご安心ください。

グループレッスンは多くの場合、年度の変わり目に、編成や担当が変わります。同じお時間で継続していただきましても、担当するスタッフが変わることがあります点、どうかご了承ください。

付記していただきましたご希望は、担当の先生の目にふれることなく、本部で処理します。ご遠慮なく、率直なご希望をお書きください。

新年度のスケジュールを確定するまでには、ご希望をおうかがいするために、こちらからご連絡をさせていただくことがございます。

お忙しい方が増え、ご家族の方と、お電話ではなかなか連絡がとれないことが増えています。日中、お電話に出ることができない、そして折り返すことが難しい、とい

うご事情もよく分かります。そのような場合、メールでおうかがいやご相談をさせていただきますと助かります。すでに多くの方がメールアドレスをご登録くださっていますが、ご登録がまだの方もいらっしゃいます。この機会に、ぜひメールアドレスもご記入いただきたいと思います。

希望表は、2月19日（日）までに、添付の封筒に入れて、ショパンはうす受付にご提出ください。本部あてに郵便でお送りいただくこともできます。

本部住所：〒171-0051 豊島区长崎3-19-1

「新年度資料冊子」は、主にスタッフに関する情報を掲載しています。新年度のレッスンをお考えになる際の参考になさってください。

「月謝表」は、2023年4月より適用されるものです。近頃の物価上昇を受け、教室の固定費もかさむばかりです。お月謝は約30年ぶりに若干の改訂をおこなっております。ご了承ください。

「一音会ガイドブック」は、コースのご紹介の他、この時期、よく頂戴するご質問を載せています。もちろん、皆さまのご質問やお迷いを、これでカバーできているとは思いません。ご不明の点や、ご相談になりたいことは、どうぞご遠慮なく、直接、一音会本部まで、お問い合わせください。

◆発表会日程を追加します

「新年度資料冊子」の中に、2023年度のレッスンスケジュールを掲載しています。皆さまにお伝えしたい大きな変更は、夏の発表会の日程を、1日追加させていただくことです。

昨夏の発表会は、金、土、日、月の4日間開催でした。

4日間のうち、日曜日をご希望の方が非常に多く、かなり偏った構成になりました。日曜日にご出演くださった方には、第3部の開演が予定より遅くなる等、ご迷惑をお

かけしました。改めて、お詫び申し上げます。

今年の夏の発表会も、同様に日曜日のご希望が多くなると予想されます。そこで日曜日の日程を追加させていただくこととしました。

2023年夏の発表会は、以下の5日開催といたします。

7月30日（日） 板橋区立文化会館小ホール ←New

8月4日（金）～7日（月） 清瀬けやきホール

8月初旬にご予定がある方や、はやく終わらせて長い夏休みを満喫したい方は、ぜひ7月の日程でご検討ください。

今年の発表会は、皆さまのご希望通りのお時間に、ご参加いただけるように思います。



板橋区立文化会館（「大山」駅より徒歩3分）

◆生徒さんご家族向けのキャンペーン

コロナ前は、この時期、新年のキャンペーンをおこなっておりましたが、コロナ禍の今は、外部の方向けのキャンペーンを停止しています。

ただし、在会の生徒さん向けのキャンペーンは、今年もおこないます。すでに在籍していらっしゃる生徒さんが、まだピアノや絶対音感やリトミックを受講していない場合、それらのレッスンを無料でご体験いただけますので、ぜひこの機会に、お試しください。

在籍していらっしゃる生徒さんのごきょうだいも体験される場合も、お一人様1回にかぎり、無料でご体験いただけます。加えて、キャンペーン期間中にご入会いただきました場合、通常 15,000 円（税抜）のご入会金を、10,000 円（税抜）とさせていただきます。ご家族の中で3人目のご入会の場合は、ご入会金は不要です。

ご興味のある方はおはじめになるチャンスです。まずは体験レッスンから、お気軽にお申し込みください。



◆「ジュニコン・オーディション」を開催します

先号でもお知らせしました通り、「ジュニコン・オーディション」を下記のようにおこないます。動画審査方式です。

「ひびきホール」でオーディションをおこない、その際の演奏を撮影させていただきます。動画をプリドノフ先生ご夫妻が観て、審査をおこない、講評を出します。

2023年3月21日（祝） 午後1時～ 「ひびきホール」

先号（2022年11月12月合併号）に、エントリー要綱を掲載しました。ぜひ、担当先生と相談しながら準備を進めてください。

「ジュニコン・オーディション」の審査により、選ばれた生徒さんは「第17回ジュニア・コンサート」にご出演いただきます。

「第17回ジュニア・コンサート」は、2023年4月28日（金）夕方、大泉学園「ゆめりあホール」にて、開催予定です。



*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：ichionkai.piano@gmail.com

電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。